

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02545

研究課題名（和文）新たな局面に入ったグローバル金融規制と危機管理の再構築

研究課題名（英文）Restructuring Global Financial Regulation and Crisis Management in the New Phase after the Global Financial Crisis

研究代表者

小川 英治（Ogawa, Eiji）

一橋大学・大学院経営管理研究科・教授

研究者番号：80185503

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトは、世界金融危機後のグローバル金融規制・危機管理についてミクロ分析とマクロ分析の両側面が相互に融合する形で研究が実施された。具体的には、まず、世界金融危機後の投資家のリスク意識、企業の金融活動及び金融市場・金融仲介の構造変化を考慮に入れながらグローバルな経済・市場動向をマクロ分析した。次に、その経済・市場の構造変化が企業の金融行動に与えた影響をミクロ（企業）の視点から考察した。最終的に、これら全ての研究が統合されミクロ・マクロ両分析が有機的に融合する形で本プロジェクトが完結し、政策提言が導かれた。研究成果は学会発表や学術誌への投稿・発刊を通じて国際的に広く発信された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界金融危機を経て、国際化が進むグローバル金融市場ではミクロ的金融摩擦とマクロ的外部不経済が相互に関連しながらグローバル経済・市場に深刻な影響を及ぼした。そこで本研究プロジェクトにおいて世界金融危機後の投資家のリスク意識や企業金融、金融市場・金融仲介の構造変化に注目しながらミクロ・マクロ間の相互作用の研究を実施したことは、独創的で現実的に有用な研究であった。さらに、金融政策、通貨政策、金融監督規制の連関・ポリシーミックスについて新しいスキームを考察し政策提言したことは、学術的にも政策実務的にも貢献があった。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we have made clear how global financial regulation and crisis management have been restructured in the new phase after the Global Financial Crisis, from both macroeconomic and microeconomic viewpoints. Specifically, from the macroeconomic one, we investigated the global market behavior after the Crisis, in particular focusing our attention on the effects of various structural changes in investor sentiment, corporate finance, financial markets, and financial intermediation. On the other hand, from the microeconomic viewpoint, we investigated the effects of the structural changes on the corporate financial behavior. In consequence, we drew some policy implications, by synthesizing the results obtained from the two viewpoints. These results are useful for actual policy conducting. We published them widely in the world through international conferences and academic journals and books.

研究分野：国際金融、国際通貨

キーワード：金融政策 グローバル金融規制・危機管理 世界金融危機

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内外の学術的背景

世界金融危機以降、企業・金融機関は財務困難性、流動性問題等の金融摩擦に晒され、さらにそれらミクロレベルの金融摩擦が金融市場で累積・増幅し外部不経済を生み出してマクロ的に経済を大きく不安定化させてきた。それに対して、2010年代には先進各国の通貨当局が量的金融緩和(QE)やマイナス金利といった異次元の金融政策を展開し、また、規制当局がバーゼルなど新しい金融規制を導入して、経済・金融の安定化に努めた。

しかし2010年代の経済政策運営はグローバルに混迷した。とくに2010年代後半を眺めると、米国では量的金融緩和(QE)縮小に続き利上げが展望された一方で、欧州・日本では依然として経済が低迷していた。従来、金融政策は経済・物価安定を目標にマクロ的に実施された一方、金融規制・金融安定化政策は主に個別の金融機関をミクロ的に監督することによって金融の健全性が維持されたことから、両政策の間にミクロ・マクロの乖離があった。しかし世界金融危機後は、企業・金融機関ごとのミクロ的金融摩擦がマクロ的に累積・増幅して外部不経済を生み出したことから、政策運営の上で金融政策と金融規制が連関せざるを得なくなり、従来の経済政策運営方法に困難が生じていた。

具体的に、例えば欧州では欧州金融機関における証券化商品不良債権の連鎖リスクのマクロ的波及がユーロ危機とドル流動性危機を引き起こした状況で、米国連邦準備制度理事会(FRB)の量的金融緩和(QE)に加え通貨スワップ協定(CSA)により大量の流動性が供給され、また、欧州中央銀行(ECB)によっても量的金融緩和(QE)政策が開始され、日本や欧州においてはマイナス金利が導入された。さらに、欧州委員会(EC)と欧州中央銀行(ECB)と国際通貨基金(IMF)の三者によってトロイカ体制が形成されて、金融摩擦の外部効果を解消すべく協調関係が構築されグローバルな金融支援が実施された。しかし、政策金利は日欧米で異なる方向に向かい、政策運営は協調を失敗しながら混迷した。また、マイナス金利政策は銀行や保険会社などの個々の金融機関の収益体制を悪化させマクロ的に金融仲介機能を減退させて金融システム全般の脆弱性を悪化させる側面もあった。

このようなグローバルな金融動向を背景に、本研究プロジェクト開始当時には、マクロブルーデンス政策の研究が再注目されるなど、世界金融危機後の新たな経済政策運営に関する学術的な政策研究に新たな発展の兆しが見られ、ドル流動性危機への政策効果や金融危機管理の学術的議論も始まりつつあった。しかし、それらの先行研究の多くは従来型のマクロモデルに依拠していて、ミクロ的な金融摩擦によるマクロ的な外部不経済の発生・波及のメカニズムの側面を十分に捉えていなかった。

そこで、ミクロ分析とマクロ分析を融合させた企業金融、金融機関、金融市場の分析が不可欠となり、その分析に基づく形で金融政策と金融規制の連関・協調に関して再検討することが学術上も政策実務上も喫緊の課題となっていた。

(2) 本研究プロジェクトの着想に至った経緯

我々研究メンバーは、科学研究費基盤研究(B)(一般)(H25-27)「グローバル金融危機後の新しい金利・為替評価手法の構築」の研究成果において、第一に、ドル流動性不足の現象とその政策的対応を観察し、金融危機管理の在り方を考察していた。第二に、金融規制が金融危機を誘発し、モラルハザード等による銀行のリスクな行動の弊害を確認した。第三に、金融摩擦要因が市場を不完備にする状況での新しい資産価値評価モデルを構築していた。そこでの研究成果は、世界金融危機後の新しい金利・為替動向を検証できたものの、依然として金融政策・金融規制の政策分析とミクロ金融摩擦によるマクロ外部不経済の分析の間にギャップが残っていた。

そこで、我々メンバーの科学研究費基盤研究(B)(一般)(H25-27)「グローバル金融危機後の新しい金利・為替評価手法の構築」の研究成果を発展させながらこのギャップを埋めることは、ミクロ・マクロの相互依存関係を基軸として金融政策と金融規制の連関を分析することに大いに役立ち社会的にも喫緊な政策研究であることから、この研究プロジェクトを着想するに至った。

2. 研究の目的

世界金融危機及びユーロ圏危機における金融市場の混乱を経験した後、中央銀行の異次元の金融政策と規制当局による新しい金融規制のもとで金融市場に新たな動きが出現してきた。特に、企業・金融機関は流動性問題、財務困難性、大きく変動する市場ボラティリティなどの金融摩擦に晒され、さらにそれらミクロレベルの金融摩擦が金融市場で累積・増幅し外部不経済を生み出してマクロ的に経済を大きく不安定化させた。このような状況では金融政策と金融規制が相互に連関せざるを得ず、政策運営はグローバルに混迷を極めてきた。本研究プロジェクトは、このような政策運営の新たな局面を最新の分析手法を使ってミクロ・マクロの両面から考察し、日米欧の政策当局の議論を踏まえながら、世界金融危機後の、2010年代のグローバル金融における規制と危機管理に関して実効性のある政策対応を再構築することを研究目的とした。

3. 研究の方法

研究体制は、一橋大学ファイナンス研究センターのメンバーを中心に、中央大学のメンバー2名とも研究を分担して、マクロ班およびミクロ班の2班によって組織された。具体的な研究方針は以下の通りである。

(1) 基礎分析

まず平成29年(2017年)度は2班がそれぞれ以下のように本研究プロジェクトの基礎・土台を構築した。

(i) マクロ班：金融政策、国際金融、金融市場の分析

日米欧の中央銀行によるゼロ金利政策・マイナス金利政策と量的金融緩和(QE)という非伝統的金融政策及びそれらの出口戦略がどのような政策チャネルを通じて国内経済に影響が及ぶのかについて分析し、同時に、新興市場諸国の通貨当局がどのような金融政策・通貨政策を採用してきて、どのような効果をもたらしてきたかについて実証的に分析した。

また、投資家のリスク回避行動等の心理要因、企業・金融機関の財務困難性などの金融摩擦要因をモデルに導入して金融市場を均衡分析した。マイナス名目金利や確率的なボラティリティが金利や金利の期間構造に与える影響も分析した。

(ii) ミクロ班：企業金融、金融機関の分析

世界金融危機後の企業投資行動や企業金融動向そして金融機関行動を分析するうえで基礎となる、日米欧州主要国などを対象にしたミクロレベルのデータベースについて、とくに2010年代のデータベースを構築した。

(2) 政策分析

次に、平成30年(2018年)度以降は、それまでの2班による研究を継続的に押し進めながら、両班のミクロ・マクロの分析を有機的に融合させて政策的な分析を行った。まず、マクロ班は、世界金融危機後の金融機関や投資家や企業の金融活動及び金融市場のミクロ金融摩擦による構造的変化を考慮に入れたマクロ経済・市場の動向の変化を分析した。

同時に、ミクロ班は、世界金融危機後の金融規制と金融政策・通貨政策の新しい方向性が金融機関や企業の金融行動、金融市場の動向にどのような効果をもたらすかを考察した。とくに、企業の資金調達行動や設備投資行動が、世界金融危機の前後でどのように変化しているのか、金融規制体系の変化が企業のファイナンス環境を変化させて企業行動に制約を課しているのか否か、また金融機関のリスクマネー供給機能はどのような要因によって規定されているのかを分析した。

さらに、ミクロ・マクロ両班共同で金融政策・金融安定化政策への含意を導き、特に流動性危機やマクロ・プルーデンス政策について研究した。この間、最大の国際金融市場が存在するロンドンのロンドン大学SOASと欧州中央銀行(ECB)の所在するドイツのライプツィヒ大学の研究者と研究交流・討論を行いながら、政策提言に向けて考察を深めた。具体的には、第一に、厳しい金融監督規制は平時に金融システムを安定化させる一方、金融機関の行動を画一化させ危機時にはネットワーク効果により多くの金融機関が一斉に破綻し得る。このときの金融規制を分析した。第二は、過剰な規制強化が金融機関の資本制約により金融のリスク分散化機能を低下させ金融を不安定化させる状況やマイナス金利の下で内生的な流動性制約が発生し市場機能を低下させる状況を動学均衡として分析して、金融政策と金融規制に関する政策的含意を導出することを目指した。

4. 研究成果

令和元年(2019年)度は、本プロジェクト最終年度として、本研究プロジェクトメンバー全員が各自の研究を完成し、それらの研究が小川(研究代表者)を中心に統括される形で世界金融危機後のグローバル金融規制・危機管理の研究を完結した。

具体的には、まず、世界金融危機後の金融機関や投資家、企業の金融活動及び金融市場の構造的変化を考慮に入れた経済・市場動向をマクロ分析した。例えば、小川は2010年代後半の米国での金利の上昇やグローバルなリスク回避意欲の高まりが新興市場諸国の資本移動に与えた影響を解明し、中村はマイナス名目金利動向を動学的な一般均衡モデルで分析し、高見沢は確率的ボラティリティ下での金利の期間構造の無裁定動向を検証した。

次に、経済・市場の構造的変化が企業の金融行動に与えた影響をミクロ(産業、企業)の視点から考察した。例えば、花崎は2010年代の日本企業における人的資源の多様化動向が企業・産業の金融行動に与えた影響を障害者雇用の変遷に注目して実証し、安田は2010年代の経済政策の不確実性が日本企業の投資・現金保有行動に与えた影響を実証した。また、小林、高岡はこれらの分析の基礎研究となる数理分析で大きな貢献をした。

最後に、小川を中心にこれら全ての研究が統括され、ミクロ分析とマクロ分析が有機的に融合する形で本プロジェクトが完結した。とくに、世界金融危機後の新しいタイプの金融危機を想定

した、金融監督規制当局及び中央銀行と国際通貨基金（IMF）と地域金融協力による金融危機管理のスキームを提言した。その際には、日米欧の中央銀行によるゼロ金利政策・マイナス金利政策と量的金融緩和（QE）政策及びそれらの出口戦略、さらには金融政策の「協調の失敗」として逆方向の金利政策が国際資本移動を通じて内外経済に及ぼす効果、及びそれらに対して新興市場諸国が採用した金融・通貨政策の効果に関する分析に基づいて、米国連邦準備制度理事会（FRB）と主要中央銀行とのCSAの効果と国際通貨基金（IMF）と地域金融協力による金融支援対応の効果について考察した。また、ギリシャ財政危機に始まるユーロ圏危機に対する欧州委員会（EC）と欧州中央銀行（ECB）と国際通貨基金（IMF）のトロイカ体制による金融危機管理の効果・成果を分析した。これによって金融支援のための国際機関としての国際通貨基金（IMF）及び中央銀行としての欧州中央銀行（ECB）の役割について検証し、政策的含意を導いた。同時に、東アジアにおける地域金融協力の考察も視野に入れて、国際金融危機管理における国際通貨基金（IMF）との補完関係のあり方も検証した。

これらの研究成果は学会発表や学術誌への投稿・発刊を通じて国際的に広く社会に発信された。なお、研究拠点である一橋大学において2020年3月16日に国際研究集会を開催する予定であった（国際研究集会のプログラムは以下の参考資料を参照）。そこでは、これまでマクロ分野で欧州問題を中心に国際金融市場の研究について共同研究を行ってきた海外研究者2名（Ulrich Volz 教授（ロンドン大学 SOAS）、Gunther Schnabl 教授（ライプツィヒ大学））、また、ミクロ分野で特に ESG に関して研究討論を行ってきた海外研究者2名（Ali Fatemi 教授（デュポール大学）、Martin Glaum 教授（WHU - Otto Beisheim School of Management））という計4名を招聘して、参加メンバー全員で研究発表・討論を行いながら、最終的に政策提言を講演・討論する予定であった。しかし、令和元年（2019年）度末に COVID-19 問題が深刻化し3月初めになって同研究集会を止む無く急遽中止することとなった。そこで同研究集会開催のための科研費支出予定額を返還したものの、研究活動や政策提言自体は予定通り完結した。

（参考資料）

【国際研究集会プログラム】

International Conference of JSPS Research Project on Restructuring Global Financial Regulation and Crisis Management in the New Phase

Date: March 16 (Monday), 2020

Venue: Hitotsubashi Hall, National Center of Sciences Building (<https://www.hit-u.ac.jp/hall/accessen.html>)

Presentation: 20 minutes, Comments: 10 minutes, Discussion: 5 minutes

9:30 - 10:00 Registration

10:00 - 10:10 Opening Remarks (Eiji Ogawa)

10:10 - 11:55 Session 1:

Chair: Masaharu Hanazaki

(1) Masashi Tomita (Meiji Yasuda Life Insurance Company), Koichiro Takaoka (Chuo University) and Motokazu Ishizaka (Chuo University), "On the Ruin Probability of a Generalized Cramér-Lundberg Model Driven by Mixed Poisson Processes"

Discussant: Hidetoshi Nakagawa (Hitotsubashi University)

(2) Kenta Kobayashi (Hitotsubashi University), "An Optimal Stopping Time Problem Associated with the Minimum and the Maximum of a Brownian Motion"

Discussant: Hiroaki Hata (Shizuoka University)

(3) Hideyuki Takamizawa (Chuo University) "How Arbitrage-Free is the Nelson-Siegel Model under Stochastic Volatility?"

Discussant: Kazuhiko Ohashi (Hitotsubashi University)

11:55 - 12:55 Lunch

12:55 - 14:40 Session 2:

Chair: Martin Glaum (WHU - Otto Beisheim School of Management)

(4) Masaharu Hanazaki (Hitotsubashi University), Pramuan Bunkanwanicha (ESCP Europe), Yusuke Imani (Hitotsubashi University), "The Disabled Employment of Japanese Firms: Empirical Analysis of its Determinants and Influences"

Discussant: Ali Fatemi (DePaul University)

(5) Yukihiro Yasuda (Hitotsubashi University), Ryosuke Fujitani (Hitotsubashi University), Masazumi Hattori (Nihon University), "Economic Policy Uncertainty and Corporate Investment: Evidence from Japan"

Discussant: Kazuo Yamada (Ritsumeikan University)

(6) Hisashi Nakamura, "A General Equilibrium Analysis of Low Nominal Interest Rates under a Bank Capital Constraint"

Discussant: Masataka Suzuki (Yokohama National University)

14:40 - 15:00 Coffee Break

15:00 - 17:20 Session 3:

Chair: Eiji Ogawa

(7) Eiji Ogawa (Hitotsubashi University), Junko Shimizu (Gakushuin University), and Pegfei Luo (Hitotsubashi University), "Effects of US Interest Rate Hikes and Global Risk on Daily Capital Flows in Emerging Market Countries"

Discussant: Kentaro Kawasaki (Toyo University)

(8) Masao Kumamoto (Hitotsubashi University) and Juanjuan Zhuo (Kochi University), "Global Risk and Safe Currency: A Copula-DCC-GARCH Model Approach"

Discussant: Yuki Masujima (Bloomberg Economics)

(9) Ulrich Volz (SOAS University of London), "Revisiting the Global Financial Safety Net: Advances, Gaps and the Way Forward"

Discussant: Masayuki Keida (Rissho University)

(10) Gunther Schnabl (Leipzig University) and Nils Sonnenberg (Leipzig University), "Monetary Policy, Financial Regulation and Financial Stability: a Comparison between Fed and ECB"

Discussant: Toshiki Jinushi (Kansai University)

17:20 - 17:30 Closing Remarks (Eiji Ogawa)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 小川英治、羅鵬飛 | 4. 巻 498 |
| 2. 論文標題 グローバルリスクとその測定 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日経研月報 | 6. 最初と最後の頁 12-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Eiji Ogawa, Naoki Shinada, Masakazu Sato | 4. 巻 16(2) |
| 2. 論文標題 Japanese Companies' Overseas Business Expansion and Impacts of Changes in Exchange Rate | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Public Policy Review | 6. 最初と最後の頁 223-248 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Yasuda Yukihiro, Joseph J. French, Fujitani Ryosuke | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Under pressure: Listing status and disinvestment in Japan | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Finance Research Letters | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.frl.2019.08.012 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Yukihiro Yasuda, Joseph J. French, Juxin Yan | 4. 巻 56 |
| 2. 論文標題 Relationships matter: the impact of bank-firm relationships on mergers and acquisitions in Japan | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Financial Services Research | 6. 最初と最後の頁 295-305 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10693-019-00327-3 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 安田行宏、山田佳美 | 4. 巻 306 |
| 2. 論文標題 フィンテックと銀行貸出に関する論点整理: P2Pレンディングとの比較の観点から | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 東京経学会誌 | 6. 最初と最後の頁 15-38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Eiji Ogawa | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 Effects of FRB 's Raising Interest Rates on Regional Currencies and Regional Monetary Cooperation: A Case of East Asia | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Journal of APEC Studies | 6. 最初と最後の頁 1-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Eiji Ogawa, Makoto Muto | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 What Determines Utility of International Currencies? | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Risk and Financial Management | 6. 最初と最後の頁 1-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Eiji Ogawa, Junko Shimizu, Pengfei Luo | 4. 巻 19-E-019 |
| 2. 論文標題 Effects of US Interest Rate Hikes and Global Risk on Daily Capital Flows in Emerging Market Countries | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series | 6. 最初と最後の頁 1-106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小川英治、品田直樹、佐藤正和 | 4. 巻 136 |
| 2. 論文標題 企業の海外進出と為替レートの変動の影響 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 フィナンシャル・レビュー | 6. 最初と最後の頁 58-77 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小川英治 | 4. 巻 70 |
| 2. 論文標題 国際通貨制度に関する実証的分析のための理論的フレームワーク | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 同志社商学 | 6. 最初と最後の頁 47-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 花崎正晴 | 4. 巻 56 |
| 2. 論文標題 設備投資をめぐる諸課題 低迷の背景と各種の実証分析 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 証券アナリストジャーナル | 6. 最初と最後の頁 30-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Masaharu Hanazaki, Tetsuya Hada | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 Analyzing Determinants of Corporate Investment Behavior: Progress in Investment Diversification and Roles of Internal Funds | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Public Policy Review | 6. 最初と最後の頁 433-460 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 花崎正晴、児山紗也、張嘉宇 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 ESGと財務パフォーマンス 日本の製造業の財務指標と気候変動要因に関する分析 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 一橋商学論叢 | 6. 最初と最後の頁 25-42 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Le Wang, Qun Liu, Masaharu Hanazaki | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 Corporate Board Structure and Corporate Performance: Empirical Analysis of Listed Companies in China | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Fudan Journal of the Humanities and Social Sciences | 6. 最初と最後の頁 137-175 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Eiji Ogawa, Makoto Muto | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 Inertia of the US Dollar as a Key Currency through the Two Crises | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 Emerging Markets Finance and Trade | 6. 最初と最後の頁 2706-2724 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/1540496X.2017.1336998 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Eiji Ogawa, Makoto Muto | 4. 巻 21 |
| 2. 論文標題 Declining Japanese Yen in the Changing International Monetary System | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 East Asian Economic Review | 6. 最初と最後の頁 317-342 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 12件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yukihiro Yasuda |
| 2. 発表標題 Internal and External Lending by Nonfinancial Businesses During Crises and During Other Times |
| 3. 学会等名 Global Finance Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 Effects of FRB 's Raising Interest Rates on Regional Currencies and Regional Monetary Cooperation: A Case of East Asia |
| 3. 学会等名 CEAMeS Workshop (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 What Determines Utility of International Currencies? |
| 3. 学会等名 APEA Annual Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 What Determines Utility of International Currencies? |
| 3. 学会等名 JEN Conference (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 Effects of FRB's Raising Interest Rates on Regional Currencies and Regional Monetary Cooperation: A Case of East Asia |
| 3. 学会等名 一橋大学吉林大学共同学術フォーラム(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 小川英治、佐藤正和 |
| 2. 発表標題 企業の海外進出と為替レートの変動の影響 |
| 3. 学会等名 日本金融学会2018年度秋季大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 Effects of US Interest Rate Hikes and Global Risk on Daily Capital Flows in Emerging Market Countries |
| 3. 学会等名 T20 Workshop on Toward G-20 Principles for IMF Reform(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 Effects of US Interest Rate Hikes and Global Risk on Daily Capital Flows in Emerging Market Countries |
| 3. 学会等名 Asia EU Cooperation Seminar(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yukihiro Yasuda |
| 2. 発表標題 Earnings Quality, Public Debt, and Ownership Structure: Listed Versus Unlisted Public Companies |
| 3. 学会等名 Multinational Finance Society (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yukihiro Yasuda |
| 2. 発表標題 Who, When, and How Much Corporate Parents Help: Evidence from Japanese Consolidated and Unconsolidated Financial Statements |
| 3. 学会等名 Multinational Finance Society (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yukihiro Yasuda |
| 2. 発表標題 Stock Market Listing, Investment, and Business Groups: How Firm Structure Impacts Investment? |
| 3. 学会等名 Multinational Finance Society (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hisashi Nakamura |
| 2. 発表標題 Macroeconomic implications of nominal yield curves |
| 3. 学会等名 一橋大学吉林大学共同学術フォーラム (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hisashi Nakamura |
| 2. 発表標題 A General Equilibrium Analysis of Negative Interest Rates |
| 3. 学会等名 共同利用・共同研究拠点明治大学先端数理科学インスティテュート(MIMS)「現象数理学拠点」共同研究集会(明治大学中野キャンパス) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa, Makoto Muto |
| 2. 発表標題 Declining Japanese Yen and Inertia of the US Dollar |
| 3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa |
| 2. 発表標題 Effect of FRB's Raising Interest Rate on Regional Currencies and Regional Monetary Cooperation: A Case of East Asia |
| 3. 学会等名 3rd Annual International Conference of Silk Road Universities Network |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa, Makoto Muto |
| 2. 発表標題 Declining Japanese Yen and Inertia of the US Dollar |
| 3. 学会等名 2017 IEFS-EAER Conference |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Eiji Ogawa, Makoto Muto |
| 2. 発表標題 Declining Japanese Yen and Inertia of the US Dollar |
| 3. 学会等名 APEA Annual Meeting |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小川英治 編著 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 247 |
| 3. 書名 グローバル化と基軸通貨: ドルへの挑戦 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 花崎正晴 編著 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 勁草書房 | 5. 総ページ数 396 |
| 3. 書名 変貌するコーポレート・ガバナンス 企業行動のグローバル化、中国、ESG | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 安田行宏、三隅隆司、茶野努 編著 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 中央経済社 | 5. 総ページ数 267 |
| 3. 書名 日本企業のコーポレート・ガバナンス | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 (a) 小川英治 (b) 研究代表者：小川英治、研究分担者：中村恒、安田行宏、花崎正晴 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 256 |
| 3. 書名 世界金融危機後の金融リスクと危機管理 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 安田 行宏 (Yasuda Yukihiro) (10349524) | 一橋大学・大学院経営管理研究科・教授 (12613) | |
| 研究分担者 | 高岡 浩一郎 (Takaoka Koichiro) (50272662) | 中央大学・商学部・教授 (32641) | |
| 研究分担者 | 花崎 正晴 (Hanazaki Masaharu) (60334588) | 一橋大学・大学院経営管理研究科・教授 (12613) | |
| 研究分担者 | 高見澤 秀幸 (Takamizawa Hideyuki) (60361854) | 中央大学・商学部・教授 (32641) | |
| 研究分担者 | 小林 健太 (Kobayashi Kenta) (60432902) | 一橋大学・大学院経営管理研究科・教授 (12613) | |

